

## アラウンド GOGO 55

父と母、  
そして

ふるさとの日々



### 瀧川恵里子

この3年で相次いで両親を見送りました。二人のいなくなつたふるさととは、風景までもが違つて見えるようです。

\*

両親はふるさとの街で材木店を営み、後に建築請負を仕事にするようになりました。父は、現場に出て大工、左官屋、建具屋といった職人さんたちと共に働きました。ラワン材のにおい、おがくず、墨壺、オート三輪、そして家族のようだった職人さんの名前を思い出します。母は経理を担いながら、私と弟妹を育てました。家族で出かけるといえば、お盆に田舎の祖父母のところに行くか、父の渓流

釣りに付き合うかぐらいで私は海も見たことのない地方の街の子どもでした。暮れていく山々を見上げて、あの向こうには何があるのかと夢想した日々でした。

母は、3年余りの闘病の末、実家で亡くなりました。最後の10日間は言葉を失つたものの驚異的な生命力で、筆談で意思を伝えてくれました。父は昨秋、1週間も入院しませんでした。学生時代、遅く帰宅する私とぶつかるばかりの父でしたが、晩年は私が帰省するたび、一緒に街を歩いては喫茶店に行くことを楽しみにしてくれていました。

千葉に就職して30年を越え、幸いこの地にも多くの友人、知人ができました。共働きで忙しく、ゆつくり帰省をすることもままなりませんでしたが、私にとって大人になつてから両親と過ごしたわずかな時間は、新たな力を与えてくれました。たまに仕事や活動の話をしたからでしょうか、父が母にいつか話したという「恵里子はなんや生きたる感じがする」といった言葉を懐かしく思い出します。

\*

そびえる金華山と長良川の流れる街、岐阜。路面電車もなくなり、小学校や中学校も統合されて今はありませんが、この街を思うと、意気地が無くて周りには怖いものが一杯、すぐに涙が出てしまう幼い頃の自分がまだどこかにいるような気がします。

少し早いけれど、来年は全障研大会が岐阜で開催されるとのこと、多くの皆さんをお招きし、鮎でも食べながら交流できることが今から楽しみです。(千葉・特別支援学校)